

岐阜工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	建築計画 I
科目基礎情報						
科目番号	0044		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	コンパクト建築設計資料集成 (日本建築学会編 丸善)					
担当教員	今田 太一郎					
到達目標						
空間計画の技法および各建築物の用途に応じた計画理論とそれに関連する計画技法を修得することによって、建築物を設計するための基礎となる知識を身につける。具体的には以下の項目を目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
①建築計画に関する基本的な概念と建築計画のプロセスに関する説明問題ができる	建築計画に関する基本的な概念と建築計画のプロセスに関する説明問題が的確にできる。		建築計画に関する基本的な概念と建築計画のプロセスに関する説明問題がほぼできる。		建築計画に関する基本的な概念と建築計画のプロセスに関する説明問題できない。	
②空間構成の基本的な技法およびダイアグラムの作成に関する問題ができる。	空間構成の基本的な技法およびダイアグラムの作成に関する問題が的確 (8割以上) にができる。		空間構成の基本的な技法およびダイアグラムの作成に関する問題がほぼできる。		空間構成の基本的な技法およびダイアグラムの作成に関する問題ができない。	
③各施設計画を行う際に基本となる理論とおよび技法に関する説明問題ができる。	各施設計画を行う際に基本となる理論とおよび技法に関する説明問題が的確にできる。		各施設計画を行う際に基本となる理論とおよび技法に関する説明問題がほぼできる。		各施設計画を行う際に基本となる理論とおよび技法に関する説明問題ができない。	
④建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術の修得。	建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術に関する問題が的確にできる。		建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術に関する問題がほぼできる。		建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術に関する問題ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	①建築計画の概念およびプロセスの修得。 ②基本的な空間の計画技法の修得 ③建築施設計画に関する計画理論・技法の修得。 ④建築におけるプログラミングに関わる各概念の理解、および具体的なプログラミングのための手法、技術の修得					
授業の進め方・方法	建築計画・設計を進める上での基礎となる、「建築計画の概念とプロセス」・「空間の計画技法」を最初に学習した後、建築設計製図Ⅰの課題に対応する各施設の計画の技法について学習する。 学習・教育目標：(D-4) 100% 英語導入計画：Technical terms Documents (10%)					
注意点	授業ノートを的確に作成する。また、授業で触れる建築計画学の知識を生かして、図面から、建築計画上の意図を正確に読み取ることができるようになるよう、心がけること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	建築計画の概念	建築計画の概念の理解		
		2週	ヒトと環境 1	人間工学・ニッチについての理解		
		3週	ヒトと環境 2	場・縄張り・領域の理解		
		4週	設計手法	ゾーニング・グリッド・モジュール、設計プロセスの理解		
		5週	住まい論	nLDK型住居と伝統的住居についての理解		
		6週	住まい論 2ー集合住宅 (住棟計画・住戸計画)	住棟計画・住戸計画についての理解		
		7週	住まい論 3ー集合住宅 (配置計画)	配置計画の理解、事例を通じた計画手法の理解		
		8週	中間のまとめ	計画技法、人間工学、集合住宅計画の確認		
	2ndQ	9週	図書館の計画 1	図書館の変遷、所要各室の性能についての理解		
		10週	図書館の計画 2	書架方式の理解、設計上の留意点の理解		
		11週	図書館の計画 3 (ALレベル:C)	事例の分析 (レムクールハースのシアトル図書館など)		
		12週	劇場の計画1 (プロセニウム劇場の成立にいたる歴史と空間の変化 1)	西洋劇場の形式の変遷の理解 (プロセニウム劇場の成立にいたる歴史と空間の変化 1)		
		13週	劇場の計画 2 (プロセニウム劇場の成立にいたる歴史と空間の変化 2)	プロセニウム形式の理解 (プロセニウム劇場の成立にいたる歴史と空間の変化 2)		
		14週	劇場の計画 3 (オープンステージの形式)	オープン形式の劇場計画の理解		
		15週	劇場の計画 4 (ALLレベル : C)	事例の分析を通じた劇場計画の理解		
		16週	前期末のまとめ	図書館・劇場計画の確認		
後期	3rdQ	1週	学校の計画1	学校計画と教育の関わりの理解		
		2週	学校の計画 2	学校の運営方式の理解、オープンブランスクールの理解		
		3週	学校の計画 3 (ALLレベル:C)	事例の分析を通じた学校計画の理解		
		4週	事務所建築の計画 1 (コアシステム)	事務所建築の計画の理解		
		5週	事務所建築の計画 2 (オフィスの平面構成)	事務所建築の計画の理解		

		6週	事務所建築の計画 3（オフィス環境のデザイン）	事務所建築の計画の理解
		7週	集合住宅の計画 4（事例の分析）（ALレベル：C）	実例の分析を通じた事務所建築の計画の理解
		8週	中間のまとめ	学校計画、事務所建築の計画の確認
	4thQ	9週	空間計画論 1	建築の隠喩表現の構造についての手法的理解
		10週	空間計画論2	空間デザインとしての動線計画の理解
		11週	空間計画論3	オランダ構造主義の概念と空間像の理解
		12週	空間計画論4	代官山ヒルサイドテラスの分析
		13週	空間計画論5	事務所建築の計画の理解
		14週	空間計画論6（ALレベル：C）	デザインの観点からの空間システムの分析的理解
		15週	空間計画論7	空間計画論の俯瞰的理解
		16週	空間計画論のまとめ	空間計画の手法の確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	モジュールについて説明できる。	3	
				建築設計に関わる基本的な家具をはじめとする住設備機器などの寸法を知っている。	2	
				居住系施設(例えば、独立住宅、集合住宅など)の計画について説明できる。	4	
				教育や福祉系の施設(例えば、小学校、保育所、幼稚園、中・高・大学など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	4	
				文化・交流系の施設(例えば、美術館、博物館、図書館など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	4	
				医療・業務系の施設(例えば、オフィスビル、病院、オーディトリウム、宿泊施設等)あるいは類似施設の計画について説明できる。	4	
				建築計画・設計の手法一般について説明できる。	4	
				都市と農村の計画について説明できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	0	20
専門的能力	80	0	0	0	0	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0